

複式指導資料第33集（平成28年度）
岩手の小規模・複式指導ハンドブック



「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す

複式指導のための資料集

～ 3つの実践事例と10のQ&A～



平成29年2月
岩手県教育委員会

目 次

- ・はじめに
- ・実践事例 1（算数 3， 4 年）二戸市立御返地小学校 1
 - Q1 複式学級の指導におけるアクティブ・ラーニングの視点とは？
 - Q2 両学年の子供に、学習の見通しをどうもたせるか？
 - Q3 算数で、教科書を開く授業のメリットとデメリットは？
 - Q4 黒板や座席配置のメリットとデメリットは？
- ・実践事例 2（社会 3， 4 年）岩手大学教育学部附属小学校 5
 - Q5 子供たちの学習状況はどうなっているのか？
 - Q6 間接指導・直接指導をどう位置付ければよいのか？
 - Q7 「ずらし」の適用・発展で、どんな工夫ができるのか？
- ・実践事例 3（国語 3， 4 年）雫石町立橋場小学校 9
 - Q8 少人数だけど、学力差が…。どう対応したら…？
 - Q9 「学習の振り返り」の時間をうまく時間を確保するには？
 - Q10 単式学級の授業づくりとどう結び付けるか？
- ・協力校， 作成協力， 参考文献



はじめに

平成28年12月の中央教育審議会答申では、教育基本法や学校教育法が目指す普遍的な教育の根幹を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子供たちが未来の創り手となるために求められる資質・能力を育むために、子供たちの学びの姿として「**何ができるようになるか**」「**何を学ぶか**」「**どのように学ぶか**」などについて具体的に考え、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、評価・改善を図ることなどが求められています。

本県では、30%近い小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた、社会に適應する能力を育てる「人間形成」のために欠くことのできない視点となっています。複式学級では、さまざまな課題が生じ得るといわれていますが、各学校では複数学年の内容等と向き合い、それぞれの指導目標の達成に向けて、「**カリキュラム・マネジメント**」の視点から目の前にいる子供の学びの姿に寄り添いながら、直接指導と間接指導を組み合わせた不断の授業改善が進められております。近年の諸調査等における成果は、教育の不易と流行を兼ね備えた複式学級という最前線で、先生方が日々取り組んできた献身的な指導の賜物に他なりません。

そこで、今年度は、「学び」の本質として重要となる「**主体的・対話的で深い学び**」の実現を目指した「**アクティブ・ラーニング**」の視点や「**何が身に付いたか**」という学習評価の充実の視点から、授業改善の取組を活性化していくことを目指し、学校公開研究会や複式指導等改善講座等における提案授業から3つの実践事例と、協議等で県内の先生方からお寄せいただいた質問等を10のQ&Aに整理し、複式指導資料を発刊することといたしました。

この指導資料が、複式学級を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援するハンドブックとして活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育室



平成28年6月9日(木)
 二戸市立
 御返地小学校
 実践事例(1)

- ・教科書をガイドのように活用し、子供の主体的な学びの実現を図り、テンポよく展開しています。3年生ではドリル等にも十分時間をかけています。
- ・4年生は、学習状況に応じて対話的な学びを適宜取り入れ、深い学びの実現を図る「考えがいのある課題」をプラスして考えさせています。



第3学年

これまでに学習した、たし算とひき算をふり返ろう。

P.52で、これまでに学習した、たし算とひき算を計算してみましょう。

$9 + 4 = 13$, $29 + 14 = 43$, $69 + 54 = 123$,
 $429 + 64 = 493$, $43 - 14 = 29$, $123 - 54 = 79$,
 $493 - 64 = 439$ 。あれっ？

$123 - 54 = 69$, $493 - 64 = 429$ だよ。
 ちょうど、たし算とひき算で、たしかめ
 になっているからそうだよ。

365円のパイと、472円のケーキを買います。代金はいくらですか。

$365 + 472 = 837$ じゃない？

私も同じで、837円になると思った。

▶ 筆算のしかたを考えよう。

間接指導で、多くの筆算に取り組む。

Point!

あれっ？ もう2人とも筆算できそうだね。じゃあ、P.54の 1 までどんどん進んでごらん。

① $\begin{array}{r} 234 \\ +625 \\ \hline 859 \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 508 \\ +471 \\ \hline 979 \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 327 \\ +164 \\ \hline 491 \end{array}$ ④ $\begin{array}{r} 418 \\ +359 \\ \hline 777 \end{array}$ ⑤ $\begin{array}{r} 187 \\ +706 \\ \hline 893 \end{array}$ ⑥ $\begin{array}{r} 134 \\ +592 \\ \hline 726 \end{array}$ … ⑨ $\begin{array}{r} 81 \\ +630 \\ \hline 711 \end{array}$

スゴイ！全部筆算で計算できましたね！

学習状況をよく見取りながら、主体的な
 学びが実現できるようにする。

まとめを読みましょ。

たし算の筆算は、3けたになっても、位をそろえて、一の位から順にたします。

ところで、3けたのたし算の筆算は初めてだったのに、どうして計算できたのかな？

それがわかるように、まとめに付け加えたいんだけど…？ なんて付け加えたらよいか？

えっ？いきおいで、いつの間にかできたから…。

前にやったたし算と同じように筆算を
 したらできちゃったんだけど…。

あっ！それか！

たし算の筆算は、3けたになっても、**2けたのときと同じように**、
 位をそろえて、一の位から順にたします。

じゃあ、次にどんな計算について考えてみたいかな？

Point!

4けたのたし算にするとか…。

次は、ひき算にして、3けたになっても、2けたのとき
 と同じように計算できるかやってみたいです。

なるほど！面白いね！ よし！まだ時間があるから、2 までどんどん進んでいきましょう！

前に習った2ケタの筆算を
 うまく活用できましたね。

【学習の振り返り】

・ひっさんの3けたをやってわかりました。はじめてあたらしい
 ひっさんができました。さいしょはできないと思ったけど、
 やって見たらすらすらできました。

「大きい数の計算を考えよう」

(東京書籍「新しい算数3上」P.52~54)

本時の評価規準 <知識・理解>

- ・3位数の加法の計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできていることを理解している。

「垂直・平行と四角形」

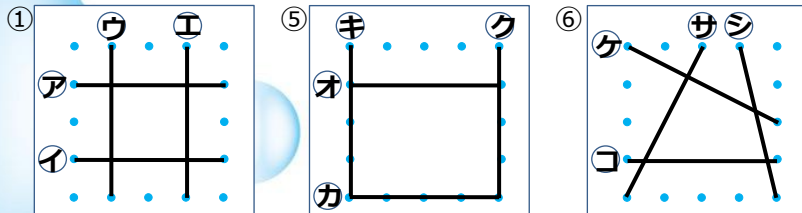
(東京書籍「新しい算数4上」P.64, 65)

本時の評価規準 <知識・理解>

- ・直線の平行の関係について理解している。

第4学年

下の①, ⑤のカードと⑥のカードをくらべて、直線の並び方のちがいを見つけましょう。



直線の並び方について調べていこう。

★上の①のカードで、ウの直線に垂直な直線はどれとどれですか？

教師

ウの直線に垂直な直線は、アとイです。

ノートにまとめを書きましょう。「1本の直線に垂直な2本の直線は、平行であるといいます。」
ということは、ウの直線に垂直な直線アとイは平行であるといえますね。

★をみんなで確認したら、P.65の2まで進みましょう。

間接指導で、問題練習に取り組む。

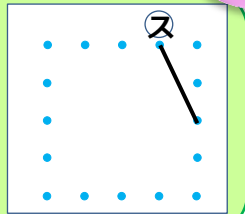
1で平行になっている直線は、アとオ, エとカです。

2で、直線ABと垂直な辺は、辺ADと辺BCです。また、辺ABと平行な辺は、辺DCです。

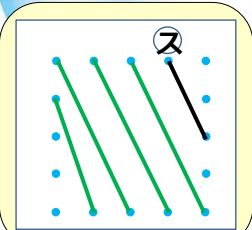
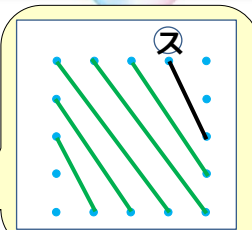
次にどんなカードについて考えてみたいかな？

統合的・発展的に考えさせる発問で、新たな問題発見・解決の過程へ。

じゃあ、右の図で、点と点を結んで、スの直線と平行な直線をひいてみましょう。



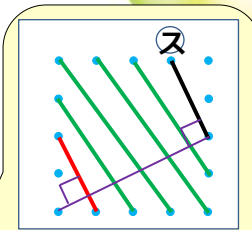
Point!



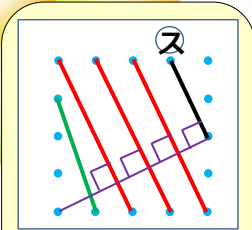
平行な直線と平行ではない直線があるみたい。どうすれば確かめられるかな？

Point!

あっ！垂直を確かめないとい！



平行は1本だけだ。



んっ？1本違う。

スに垂直な直線をひいて、それと垂直かを確かめることが大事だね。

見た目ではなく、まとめにあるとおりに、もう1本の直線との垂直で考えることができるようになったね。

【学習の振り返り】

- ・今日この勉強を習ってわかったことは、平行は、垂直になる直線どうしが平行になるということがわかりました。



複式学級の指導におけるアクティブ・ラーニングの視点とは？

<先生方の声から>

- ・**アクティブ・ラーニング**に関わって、児童が主体的に学ぶ場を設定するには、どのような準備をすればよいのでしょうか？ また、少人数で話し合うときに、教師がどのように関わればよいのでしょうか？

「**アクティブ・ラーニング**」の視点は、知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くことを目指すもので、知識の量を削減せず、「**主体的・対話的で深い学び**」の3つの視点で、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行うものです。

複式学級の指導は、**主体的・対話的な学び**について、**間接指導の充実**としてむしろ先行的に取り組んできたと捉えることができます。しかし、単に指示どおりの活動をさせるだけでなく、例えば、下のような学び方について、日常的に指導しておくことが考えられます。

また、3つの視点では、特に「**深い学び**」が質の高い理解に不可欠です。指導に当たっては、複式学級の指導でも、学習したことを活用し新たな問題解決や討論に後半取り組ませるなど、豊かな教材研究を基に子供が既習事項と関連付けたり構造化して理解したりできるような場面を設定することが大切です。

例えば、本時の第4学年のように、直線の平行についての意味理解を深めるために、子供が誤解しやすい場面を取り上げ、「**平行な直線と平行じゃない直線があるみたい。どうすれば確かめられるかな？**」と投げかけ、定義に戻って筋道立てて考える活動を取り入れることが考えられます。

「指示待ちの間接指導」から、「主体的・対話的な学び」の実現へ

- ・間接指導では、子供が見通しをもっていることが必要。
- ・自分の答えの自信のなさ、不安、聞いてみたい、相談したい、…から、**主体的・対話的な学び**が生まれる。
- ・①まずは、**自分で考えてみよう**ね。
- ・②次は、**相談してみよう**ね。
- ・③いろいろ出たら、**よりよい方法がどれか考えてみよう**ね。
- ・④できれば、**自分でまとめてみよう**ね。
- …と、徐々に指示無しでも子供が進められるようになるとよい。

「まず、次に」の話形より「あ・い・う・え・お」のリアクションを

- ・**あ**っそうか。
- ・**い**っしょだ。
- ・**う**～ん、わからない。
- ・**え**っ？ そうなの？
- ・**お**もしろい！



両学年の子供に、学習の見通しをどうもたせるか？

<先生方の声から>

- ・**見通し**のもたせ方について、非常にスピーディーだったので驚きました。私は、本時でいうと、筆算の計算方法や平行の見つけ方を、丁寧に確認するものだと思っていたのですが…？

算数科の指導に当たっては、**見通し**と**振り返り**が重視されています。ただし、パターン化して形式的に位置付けるのではなく、子供の学習状況を見取りながら柔軟に位置付けたいところです。子供のより**主体的な学び**の実現に機能する手立てとして工夫することが大切です。

例えば、本時の第3学年のように、「**2人とも筆算できそうだね。じゃあ、どんどん進んでごらん。**」として、やる気満々の子供が教科書の計算問題に多く取り組めるようにすることが考えられます。その間、第4学年を直接指導できるメリットも生まれます。そして、筆算できた子供に「**ところで、3けたのたし算の筆算は初めてだったのに、どうして計算できたのかな？**」と投げかけることで、改めて**見通し**を確認します。このやりとりが「**2けたのときと同じように**」のまとめにつながり、さらに、学習を振り返って、**4けたのたし算**や**ひき算**へ発展しようとする姿につながったと考えることもできます。

第3学年では、子供に考えさせる活動と習熟を図る活動が逆のように見えますが、そのおかげで、学習のねらいがより焦点化され、子供が帰納的に考える活動になっています。もちろん、子供がうまく筆算できていないようなら、タイミングをみて**見通し**を確認すればよいわけで、必要以上に先回りせず、**主体的な学び**に向かう子供に寄り添う学習活動の展開を目指したいものです。



算数で、教科書を開く授業のメリットとデメリットは？

＜先生方の声から＞

- ・教科書で見通しをもって取り組めるのはメリットですね。しかし、子供の思考が教科書のまねに終始して、創造的に考えられなくなってしまうのではないのでしょうか？

算数の教科書を開くか、閉じさせるかについては、様々に取り組まれています。どちらがよいかというより、授業者が指導方法の選択肢を豊かにもち、習得・活用・探究という学習過程の中で、それぞれの方法のメリットやデメリット、学習内容や子供の状況等を踏まえ、本時の指導目標の達成により効果的な方法を、適宜選択することが大切です。



例えば、本時の第3学年で、評価規準にある「2位数などについての基本的な計算を基にして」の部分は教科書に明記されていません。したがって、教科書を開いてもこの点について考えさせることが可能です。教科書を閉じさせる授業では、いろいろ考えさせることができるので、この点に焦点化を図る必要があります。指導に当たっては、数学的な考え方のポイントに着目し、言語活動の充実を図ったり、指導目標の達成に必要なプラス1題を提示したりして、授業者が子供の深い学びの実現を図ることが大切です。



黒板や座席配置のメリットとデメリットは？

＜先生方の声から＞

- ・正面と後ろの黒板（移動黒板）を使って指導したほうがよいと聞いたので、そのようにしていますが、他の使い方と比べて、どのようなメリットやデメリットがあるのか？と、いつも気になっています。

黒板の位置や子供の座席や並び方などについては、少人数の特徴を活かしてさまざまに工夫されています。その際には、それぞれの学習効果を十分に検証し、効果的な方法を適宜選択することが大切です。

例えば、正面と後ろの黒板を使う場合は、子供は背中合わせなので集中しやすいこと、授業者の視界に常に両学年の子供が入ることなどのメリットがあります。一方で、授業者が教室の前後をわたるので、移動が遠いことなどのデメリットが考えられます。



また、ある子供は、年度始めに家に帰って、こんなふうに話したそうです。

「上の学年になったら前の大きな黒板だと思っていたのに、またぼたち移動黒板なんだって…」

複式学級では進級するごとに、上学年と下学年の両方を経験することになります。指導に当たっては、授業者の視点からだけでなく、学習者である子供の想いも踏まえて、例えば、1つのスタイルに固執することなく、教科や内容に応じて両学年の座席を入れかえたり、黒板の位置をアレンジしたりして、主体的な学びの実現につながる学習環境の配慮についても考えることが大切です。

- ・御返地小学校の実践は、アクティブ・ラーニングの視点「主体的・対話的で、深い学び」を踏まえて、発問や指示、教材研究等について様々提案がなされています。
- ・学習過程に加えて、子供の学習状況に応じた臨機応変な授業展開を取り入れ、子供たちは、主体的・対話的な学びを通して、非常に意欲的に学習していました。
- ・深い学びの実現に向けて、多くの問題数に取り組みながらも、統合的・発展的に本時の学習内容について振り返る場面を位置付けています。



平成28年12月2日(金)
岩手大学教育学部
附属小学校
実践事例(2)

・共通導入・共通まとめ、わたりは1回というシンプルな学習過程と「**学びの手引き**」で、子供が主体的・協動的に学べるように工夫しています。
・下学年の終末で上学年の板書を活かしたり、上学年が下学年のときの学びを想起できるようにしたり、**複式学級の特質**を踏まえた活動が見られます。



第3学年

今日は2つの道具をもってきました。
3年生のみなさんは、これです。



ご飯をつくるお釜。



教師



なべ!

おばあちゃんが昔使っていたかも。



昔は、どのようなくらしたのだろう。

では、前に集まって、羽釜を見ていてください。

次の絵を見て、何か気付くことはありませんか?

直接指導で、絵図を見ながら話し合い、
単元の学習課題を設定する。

人がいろいろやっている。

今は機械が多いけど。

かまどの火とか大変
そうだ。

誰が何をしているかな?

家のつくりやくらしの様子で気付いたことはないかな?

大家族が、1つの部屋でみんな一緒に楽しそう。

羽釜が、炊飯ジャーになる途中の様子もわかるといいね。



電気を使っていない。

わらや木、石臼とか。

さっきのお釜もある。

みんな何か仕事している。

子供も手伝っている。

家の中で靴はいている。土間だ。

🚩 道具やくらしは、どのように変わってきたのだろう。

間接指導で、昔のくらしや道具について調べる。

学びの手引きの(1)で、まとめたら、(2)をやって、(3)で学習の
振り返りまで頑張りましょう。じゃあ、戻りましょう。

3年生 学びの手引き

(1) 学習のまとめ (5分)

黒板をノートにまとめよう。大きな問題をしっかり書こう。

(2) 昔の道具やくらしについて考えよう 1人(2分) → みんなで(5分)

①下は、囲炉裏(いろり)という場所です。いろりには、どんな役わりがあるのでしょうか? ノートに考えを書きましょう。



※ 1人で考えたら、4人であつまって、考えを交流しよう。

②4人で、昔のくらしの絵を見ながら、さらに気付いたことや、
今だとどんな道具が変わっているかを話し合ってみよう。

(3) 学習の振り返り (4分)

学習の振り返りをノートに書きましよう。

- ・昔の道具やくらしについて「分かったこと」のまとめ
- ・交流したこと、昔の道具やくらしについて考えたこと

く終わったら、次のことをしてみよう。

もしも、昔のくらしのなかで生活するとしたら、どんな感想をもちそうか考えて、
ノートに書いてみよう。(なぜ、そう感じたか理由も書こう)

Point!

【学習の振り返り】

・昔は、木や石の道具を使い、大きな部屋で生活していることがわかりました。今は、道具もくらしもかなり変わっているので、その途中でどのように変わってきたのか、もっと調べてみたいです。



昔といいましたが、4年生のグラフでいうと、ここです。

ええ〜! けっこう最近だ!

「さぐってみよう昔のくらし」

「県のさまざまな地いきの様子」

本時の評価規準 <関心・意欲・態度>

- ・具体物や絵図などの資料の読み取りを通して、古い道具や昔のくらしについて関心をもって
- いる。

本時の評価規準 <関心・意欲・態度>

- ・具体物や写真、グラフなどの資料の読み取りを通して、二戸市浄法寺町の伝統産業である浄法寺ぬりに関心をもって
- いる。

第4学年

今日は2つの道具をもってきました。4年生のみなさんは、これです。



浄法寺ぬりだっけ？ 去年見た。



うるし！

どこで作っているお椀だっけ？ 二戸？



浄法寺ぬりは、どんなおわんのだろう。

学びの手引きの(1)では、浄法寺ぬりを借りてきたので、ペアで、他の2つと比べてみましょう。(2)、(3)で、資料や写真を見て自分で調べたことをノートにまとめましょう。

Point!

4年生 学びの手引き

(1) 班のペアで、おわんをくらべよう (5分)

- ・ペアで浄法寺ぬりと、他のおわんをくらべてみよう。
- ・くらべて気付いたことをくわしくノートに書きましょう。
- ・浄法寺ぬりのとくちょうを考えてノートにまとめよう。

(2) 岩手県の農林水産物の資料から考えよう (5分)



岩手県の農林水産物の資料①と②から、二戸市のことで分かることをノートに書きましょう。

林産物	全国の順位
生うるし	1位
木炭	1位
まつたけ	2位
生しいたけ	3位

①全国3位以内の岩手県のおもな農林水産物
岩手県庁HP「いわてお産自慢 平成24～25年度データ」より

(3) 浄法寺ぬりを作っている様子から考えよう (5分)



左の写真は、浄法寺ぬりを作っている様子の写真です。写真を見て、浄法寺ぬりについて分かることをノートに書きましょう。

※書き終えたら、ペアで交流しましょう。時間があれば、他の班の人と交流しましょう。終わったら、ノートに書き足しをしながら待ちましょう。



間接指導で、浄法寺ぬりの特徴について調べる。

他の2つより重くてツルツルしている。

お椀の底が厚い。この2つは木かな？

残りの1個はプラスチックみたいだけど…

生うるしは全国1位。二戸市だけに印がある。

手作りで、真剣に作っている。押し入れみたいなのに温度計があって、その中で乾かしている。

直接指導で調べたことを交流し、単元の学習課題を設定する。

では、お椀を持って、前に集まってください。

(発表を聞いて) みんないろいろ気付いていますね。

うるしをぬる前がどうかという…。(実物を取り出して見せる)

大変そう…。伝統だ。

これには「伝統工芸品」という名前が付いているんだ。浄法寺ぬりはできてからどれくらい経っているのかな？

鎌倉時代とか？

前に学習した「鹿妻穴堰」は、実は400年前。浄法寺ぬりは、ここ。1300年前なんだ。

1300年前?!

なぜ浄法寺ぬりは、1300年もの間つくられているのだろう。

大きな学習課題(単元の学習課題)を書いたら、席に戻って振り返りを書きましょう。振り返りには、まず、浄法寺ぬりはどういうお椀か、まとめを書きましょう。そして、大きな学習課題について自分なりの予想を考えて書きましょう。

【学習の振り返り】

- ・浄法寺ぬりは、手作業でうるしを使って作るお椀で、1300年も続く伝統工芸品だとわかりました。岩手県でも二戸市でしか作っていないから、伝統になったのかなと思いました。

Q5

子供たちの学習状況はどうなっているのか？

<先生方の声から>

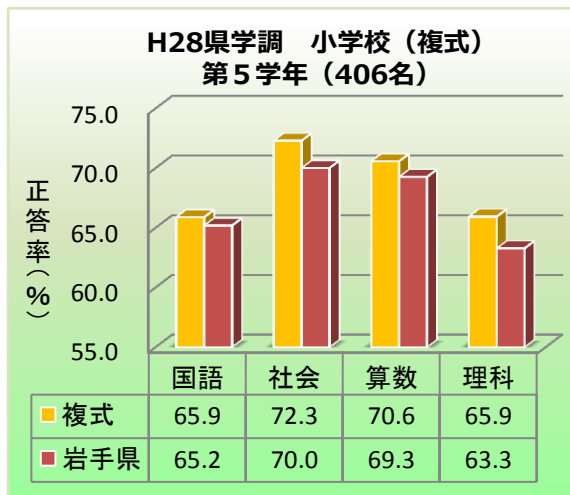
- ・毎日、どうか授業を進めています。少人数なので、個々の子供に目が向いてしまいます。諸調査の結果や分析資料等を活用しようとしても、なかなかうまくいきません。
- ・複式学級の授業は、研修の機会がほとんど国語や算数で、その他の教科の授業づくりは全くの手探りでどうしたらよいのかと困っています。

諸調査の結果分析では、ヒストグラム等を用いて、全体の傾向を読み取る手法がよく使われています。しかし、小規模・複式学級では、個人の結果によって大きく左右されるため、その傾向が捉えにくいことがあります。

そこで、平成28年度岩手県学習定着度状況調査において、右のグラフのように、県内全ての複式学級の第5学年の児童を取り出して県正答率と比較したところ、全教科で上回っていることがわかりました。

平成26年度調査は全教科で若干下回ったものの、平成27年度調査では理科が上回っており、各学校の組織的な取組と先生方の献身的な指導が着実に成果を上げ、今年度全教科に波及したものと思われます。

各学校では、本調査結果を踏まえ、校内研究の成果と課題を明らかにするとともに、一人一人の子供の学習状況を見取りやすいという小規模校のメリットを最大限に生かし、引き続き、小学校だからこそその教科横断的な視点や、学習評価の充実の視点など、指導法と教材研究の両面から不断の授業改善に取り組むようにしましょう。



Q6

間接指導・直接指導をどう位置付ければよいのか？

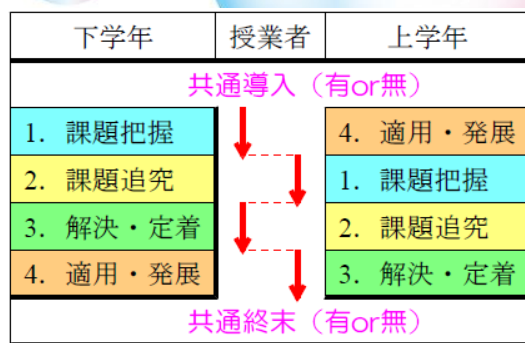
<先生方の声から>

- ・私は、わりにズレが生じ、一方の学年を待たせてしまう場合があります。直接指導すべき内容と間接指導で扱う内容とは、どのような観点で判断したらよいのでしょうか？
- ・間接指導のときに、うまく子供たちに話し合いをさせたいのですが、うまくいきません。間接指導で話し合わせるときには、どんなことに注意すればよいのでしょうか？

「ずらし」のある展開例では、課題把握や解決・定着のような話し合いが必要な場面を直接指導で扱い、課題追究や適用・発展のような個人で取り組める学習活動を間接指導で扱うことが多いようです。「共通導入・共通まとめ」で展開する場合も含め、例えば、個人で取り組む学習活動を間接指導で、話し合いなどの集団の学習活動は直接指導で扱うようにするという手法が考えられます。この場合は、何を個人で取り組ませるか、何を集団で話し合わせるかを整理し、どちらか一方に偏らないようにすることが大切です。

指導に当たっては、計算ドリル等の時間を設けて、間接指導の間も自信のない子供が相談できるようにするなど、素朴な教え合いからスタートし、ポイントとなる話し合いは直接指導でしっかり扱いながら、徐々に間接指導の中で子供たちがよりよい方法を考えたりまとめを考えたりという学び合いへ、対話的な学びのステップアップを図ることが考えられます。また、直接指導で話し合わせる際に、間接指導への移行を想定し、授業者がなるべく見守り役に回るような工夫も考えられます。

<「ずらし」のある展開例>





「ずらし」の適用・発展で、どんな工夫ができるのか？

<先生方の声から>

- ・「ずらし」で**適用・発展**から入ると、授業の流れが途中で途切れるような感じで、次の**課題設定**で唐突に切り替わってしまいます。もっとスムーズに展開したいのですが…。
- ・教科書の**練習問題**が少ないので、毎時間プリントを自作しています。**内容**や**問題数**をどのように工夫することができるのでしょうか？

算数の**適用・発展**については、同内容同構造の問題にとどまらず、**統合的・発展的に考えさせる**などして、**深い学び**の実現を図ることが求められます。

「ずらし」のある展開で導入に位置付ける場合は、直後の**課題把握**へのつながりを工夫することが大切です。例えば、右の**第3学年「かけ算の筆算**」の例では、乗数だけ数値を入れ替えるうちに、自然に次時の内容に発展できます。また、右の**第6学年「速さ**」の例では、時間の数値を入れ替えるレベルから、場面を変え、以後の予習を兼ねるなど、さまざまな工夫が考えられます。さらに、求めるものを速さに変えて前時の内容と統合的に考えたり、時間を求める問題に変えて発展的に次時の内容を取り上げたりして、つながりを工夫しています。

発展までは、本時でクリアできなくてもかまいません。評価問題というより、**次時への意欲付け**として取り組ませることが考えられます。



なお、この「速さ」の適用・発展の例は、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程研究指定校事業（へき地教育）に取り組んでいる葛巻町立小屋瀬小学校の実践の一部です。

◆適用・発展の例：第3学年「かけ算の筆算」（第8時）

適用① (P.103 **1**) の乗数だけ変える
 312×2

発展② (P.103 **1**) の乗数だけ変える・未習
 312×4 , 312×5 , 312×6 , …

発展③ (P.114 **2** **3**) で次時の導入へ
 386×2 , 937×4

(東京書籍「新しい算数3上」)

◆適用・発展の例：第6学年「速さ」（第5時）

適用① (P.113 **3**) の時間だけ変える)

時速70kmで飛ぶツバメは、5時間に何km進みますか。

適用② (P.113 **▲**) で場面を変える)

分速800mで飛ぶカモメは、5分間に何m進みますか。

適用③ (P.116 **★**) の予習を兼ねる)

分速13kmで飛ぶ飛行機は、120分で何km進みますか。

統合④ (P.111 **2**) に戻る・既習)

3時間で630km進む新幹線はやて号は、時速何kmですか。

発展⑤ (P.113 **3**) の求めるものを変える・未習)

時速52kmで飛ぶツバメが、260km進むのに何時間かかりますか。

発展⑥ (P.114 **4**) で次時の導入へ)

時速25kmで進む台風が、400km進むのに何時間かかりますか。

(東京書籍「新しい算数5」)

適用・発展を終末に位置付ける場合や、前時の復習を導入に位置付ける場合にも、同様の工夫が考えられます。指導に当たっては、1問ずつ分けて丁寧に扱うばかりでなく、敢えてまとめて提示することも大切です。つまり、子供が取り組む前ではなく、取り組んだ後に、子供がどう考えたかを見取り、「**さっきと違う。**」「**んっ？うまくいかない。**」「**どうしたらよいのかな？**」などという子供の気付きを生かし、**主体的・対話的で深い学び**として取り組めるようにすることが考えられます。

- ・岩手大学教育学部附属小学校の実践は、「**学習の手引き**」により、間接指導で子供が個人やペアで課題追究できるようにした上で、直接指導で**深い学び**の実現を図っています。
- ・**共通導入・共通まとめ**の学習過程により、上学年の子供が前年度を振り返ったり、下学年が次年度を見通したりする場面が見られ、**複式学級の特質**を生かした学習になっています。
- ・実物を子供がさわれるようにしたり、写真やグラフなどの資料を効果的に提示したりして、各学年で社会科としての**主体的・対話的な学び**が実現するように工夫を凝らしています。



平成28年10月4日(火)
粟石町立
橋場小学校
実践事例(3)

・3年生は設定した目標に迫るために、「中」の書き方につながる段落相互の関係について考える場面を、4年生は、文章全体の構成に着目した段落相互の関係について考える場面を明確に位置付け、中心教材を読む学習場面での思考を自分の表現に活かすことができるように配慮しています。



第3学年

第1次(2時間)

身近な材料がすがたを変えていろいろな食品になっていることを知り、自分が調べた食べ物について「ぼく・わたしのイチオシ! すがたをかえる食べ物紹介」にまとめる学習の見通しをもつ。

第2次(3時間)

「すがたをかえる大豆」を読み、自分の紹介する食べ物の紹介に役立つ説明の工夫を考える。

- ① 既習段落を活用して形式段落や全体構成(はじめ・中・おわり)を考えさせ、事例の挙げ方について「中」の意味段落に着目し、大豆をおいしく食べる工夫とできる食品について形式段落毎に付箋にまとめ、並べる。
- ② 「中」の形式段落内の文章のつながりを考える(中心となる語や文を捉えながら、工夫から食品、食品から工夫というつながり方の違いを基に読む思考)。
- ③ **形式段落同士のつながりを考え、複数の事例を説明する際の段落相互の関係を考え、文章の構成に必要な考え方を学ぶ(形式段落をいろいろに入れかえた例の挙げ方と筆者の例の挙げ方を比べ、筆者の意図を捉える思考)。**

<第2次③/3: 展開イメージ>

Point!

例を挙げる順序を入れかえて、「中」の形式段落のつながりを考えましょう。

2つ考えました。

まずは、**ウ→エ→オ→ア→イ**で、この並べ方は普段よく食べる順序のつながりです。
もう一つは、**イ→オ→ウ→エ→ア**で、これは、ボクが好きな食べ物の順です。

オ→ア→イ→ウ→エの順を考えました。育て方のところを先にすると、成長に合うつながりになると思いました。

オ	エ	ウ	イ	ア	筆者の組み立て
とり入れる時期や育て方のくふう ↓ もやし ↓ えだ豆	目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう ↓ なっとう ↓ みそ	大切なえいようだけをとり出してちがう食品にするくふう ↓ どうふ	こなに引いて食べるくふう ↓ きなこ	その形のままだったり、にたりしてやわらかくするくふう ↓ 豆まきの豆 ↓ 豆	

間接指導で、実際に付箋を操作しながら、いろいろな組み立てを想定させることが大切です。

つながりの理由で、いろいろな順序ができるね。

いろいろな順序が考えられるけど、筆者は**ア→イ→ウ→エ→オ**の組み立てで書いています。筆者のこの順序のつながりを考えてみよう。

どんな順序のつながりになっているかを、直接指導で考えさせることが大切です。

大豆をそのまま使って、すぐにできる工夫から並べて、だんだん手間のかかる工夫になる順序のつながりじゃないかな。

「いちばんわかりやすいくふう」とあるから、読む人にわかりやすい順序のつながりだと思います。

筆者も形式段落の順序をいろいろ考えた上で、わかりやすく伝わる順序のつながりで、この組み立て方にしたんでしょうね。今日の学習で、この後の学習に役立つようなことはありましたか?

自分の紹介する食べ物の組み立てを考えると、段落のつながり方をいろいろ考えて、読むにもわかるように決めたいです。

成長に合うつながりや、すぐにできる工夫からの順で考えたことがなかったので、自分が紹介するときにも役立てたいと思いました。

第3次(5時間)

自分が一番紹介したい食べ物について、事柄のまとまりとつながりに気を付けて文章の構成を考えながら、「ぼく・わたしのイチオシ! すがたをかえる食べ物紹介」を書き、読み合う。

「すがたをかえる大豆」

(光村図書「国語三下」P.30～43)

本時の評価規準<読むこと>

- ・中心となる語や文を捉え、指示語や接続詞に着目しながら、「中」の形式段落のつながりについて考えながら読んでいます。

「アップとルーズで伝える」

(光村図書「国語四下」P.34～47)

本時の評価規準<読むこと>

- ・中心となる語や文を捉え、事実と意見の関係を捉えながら、文章全体の段落のつながりについて考えながら読んでいます。

第4学年

第1次(2時間)

説明のしかたを工夫して、「クラブ活動紹介リーフレット」にまとめる学習の見通しをもつ。

第2次(3時間)

「アップとルーズで伝える」を読み、クラブ活動の紹介に役立つ段落同士の関係や説明のしかたの工夫を考える。

- ① 既習段落を基に形式段落から問いの段落、まとめの段落を仮定し文章構成を概観する。5枚の写真を説明している段落を見つける(内容のまとめりごとに段落があることへの着目)。
- ② アップとルーズの違いを述べている4・5段落を比較し、よく分かることと分からないことをまとめ、段落内の文章の組み立てに着目して対比する説明のしかたやそのよさを捉える(説明のしかたの工夫を捉える思考)。
- ③ 前時の学習を基に、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係に着目して読む(3段落と1・2段落の関係、1～6段落と7段落の関係、全体の文章構成における8段落の役割を考える思考)。

<第2次③/3:展開イメージ>

教師 前の国語の時間では、4・5段落を比べて説明するとアップとルーズがよく分かることやアップとルーズが互いに分からないことを補う関係であることを読みました。そして、そのまとめが6段落であるということを知りましたね。今日は他の段落の関係を考えましょう。

いつも、問いは1段落だと思っていたけど、3段落だとすると、1・2段落は…?

3段落は「初めの画面のように」や「次の画面のように」とあるから、1・2段落が3段落につながっていると思うよ。

確かに、1段落はルーズを紹介している感じだし、2段落はアップの紹介から始まっているね。写真もあって分かりやすいね。

間接指導で1～3段落のつながりを考えさせた上で、直接指導で7・8段落の関係を考えさせます。

1～6段落のつながりが見つけられたね。これはテレビ映像の例の段落のまとめりだね。

紹介文を書く言語活動に活用できることを、子供が実感できるようにします。

7段落は、1～6段落のまとめりと関係があるのでしょうか？新聞の写真の選び方は、テレビでの映像の使い方と同じですか？

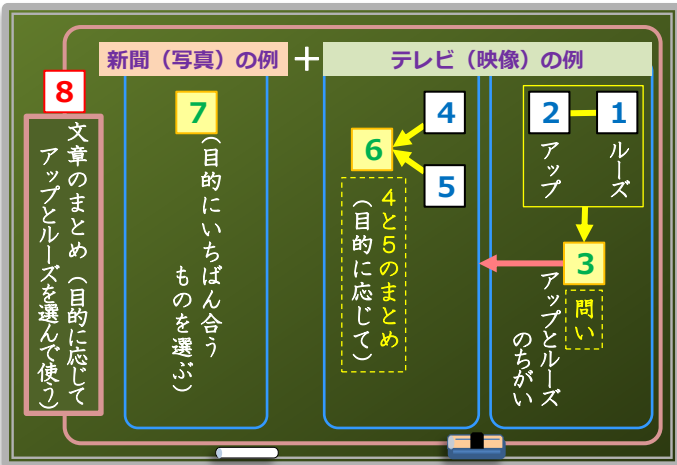
Point!

目的に応じてアップとルーズを選んで使うことが大事ということが同じだから、関係ある。

文章全体の段落のつながりを見つけられたね。今日の学習でクラブ紹介のリーフレットを作るときに役立つような考えはありましたか？

伝えたいことにピッタリ合う写真を選ぶ考えを自分の紹介に生かしたいです。

わたしはバドミントンクラブなので、打ち合いの面白さを伝える文章には、全体が見えるルーズの写真を使えばいいかなと思っています。



第3次(5時間)

自分のクラブ活動で紹介したい内容を決め、アップとルーズの写真の使い方や対比といった説明のしかたの工夫を取り入れて、文章の構成を考えながら、紹介リーフレットを書き、読み合う。



少人数だけど、学力差が…。どう対応したら…？

<先生方の声から>

- ・少人数なのですが、**学力差が大きく、個別の指導や支援**が必要な子供もいて、複々式のようになってしまふことがあります。どのような指導の工夫が考えられますか？

小規模・複式学級では、学力差が授業展開へ影響しやすい面があり、大きな課題となっているようです。しかし、一人一人の学習状況を把握しやすいことは、少人数学級の大きなメリットですから、**子供たちにはさまざまな個人差があっても当然**というように捉えることが大切です。

ただし、学力差があるからと、個別・習熟度別に対応しようとすると一方の子供が孤立することがあります。指導に当たっては、例えば、学力差を生かした**教え合いや学び合い**の機会とし、「**できなかった**」が「**できる**」に変わる、「**わからなかった**」が「**わかる**」に変わるようなより豊かな学びの機会とすることが考えられます。また、子供が**見通し**をもって安心して学習できるようにしたり、**体験的に**学習する活動を取り入れ、子供が実感を伴って理解できるようにしたり、**協働的に**学習できるようにしたりすることも考えられます。



「学習の振り返り」の時間をうまく確保するには？

<先生方の声から>

- ・複式学級でも、**学習の振り返り**に時間をかけたいのですが、なかなかうまく時間を確保できず苦戦しています。その際の指示や発問などについてもまだ不安があります。

平成27年12月に示した「**いわての授業づくり3つの視点**」では、「**学習の振り返り**」について、次のような児童生徒の姿を大切にしています。

視点3 学習の振り返り

■ 児童生徒の姿 ■

★ 学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりする

- ・授業を通して、**できるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったこと**などについて、自分の言葉で説明している。
- ・**評価問題を解いたり身に付いた力を確認したりして、学習の成果を実感している。**

★ 学習プロセスを振り返ったり、協同的な学習活動の良さを実感したりする

- ・どのような学習プロセスによって**自分がどのように変容したのか**などについて、自分の言葉で説明したり、「**友達から学ぶことができた**」など、**学習活動の良さを実感したりしている。**

このことから、次の①～③のような活動を位置付けることが考えられます。

- ① 評価問題を解いたり身に付いた力を確認したりする活動を取り入れる。
- ② わかったことやわからなかったことなどを説明する活動を取り入れる。
- ③ 学習プロセスを振り返り、達成感や有用感などを実感できるような活動を取り入れる。

したがって、狭義に活動②だけを「**学習の振り返り**」と捉えるのではなく、活動①や活動③の活動と、活動②との効果的な連動により、各教科等の目標に即して**深い学び**の実現を図ることが大切です。指導に当たっては、「**できるようになったことやわかったことを書きましょう。**」に加え、「**できなかったこと、わからなかったことも書いてごらん。**」と指示し、より個人の学習プロセスに注目できるようにすることが大切です。その際、従来の45分間の授業に、新たに「**学習の振り返り**」を加えようとすると、時間が足りなくなってしまう。そこで、例えば、「**30分でまとめて、学習の振り返りへ**」のように、**視点1「学習の見通し」、視点2「学習課題を解決するための学習活動」**と合わせ、授業全体の学習活動と時間配分を見直すことが考えられます。

＜先生方の声から＞

- ・初めて**複式学級**を担当し、**単式学級**のような授業づくりではうまくいかなくて、思うように子供たちを活動させられずに戸惑っています。**単式学級**との違いをどう捉えたらよいですか？

複式学級と単式学級で別々に考えてしまいがちですが、各教科等の目標や指導内容は共通なので、授業づくりも原則共通でかまわないはず。それでも、「**単式のように手立てを組めない**ので…」という声を耳にすることがあります。確かに、単式学級の授業を組み合わせるとうまくいかない場合がありますが、逆に、複式学級の授業を2つの単式学級の授業に分けたときにどうかと考えることも大切です。

例えば、右の展開例では、**直接指導**と**間接指導**の場面こそ異なっていますが、学習の流れは同じです。一方の学年だけに注目すると、単式学級は「**わたり**」が不要なので、**間接指導**時の子供の学習状況を把握できるという大きなメリットがあります。せっかくの**主体的・対話的な学び**の場面ですから、単式学級だからと手立てを増やしすぎると逆効果になることもあります。

つまり、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現を目指す上では、「**単式学級のようにいかない**。」ではなく、むしろ「**複式学級だとしたら…**。」と捉えてみるのが考えられます。

特に、単式学級と複式学級を有する学校では、校内研究等でなかなか議論がかみ合わないという場合もあるかと思われ。複式学級の授業研究会なら、一方の学年の展開を単式学級で行ったらどうか、単式学級の授業研究会なら、もう1つの学年の授業展開をイメージし、複式学級で行ったらどうかという視点で、両者にメリットのある研究協議ができるようにすることも考えられます。

「**単式は複式のように。複式は、単式への架け橋として。**」

岩手県には、複式学級を有する小学校が100校近くあります。本県ならではの視点の一つとプラスに捉え、複式学級と単式学級のどちらにもメリットのある授業改善を図ることができればと願っています。

＜「ずらし」のない展開例＞

下学年	授業者	上学年
共通導入（有or無）		
1. 課題把握	↓ ↓ ↓ ↓	1. 課題把握
2. 課題追究		2. 課題追究
3. 解決・定着		3. 解決・定着
4. 適用・発展		4. 適用・発展
共通終末（有or無）		



- ・橋場小学校の実践では、複式学級であっても、展開イメージのように、国語科で大切にしたい思考にかかわる学習活動を位置付けることを重視しています。
- ・**深い学び**の実現に向けて、3年生では、自分で例の順序を入れかえる活動から、筆者の意図を読み取ることで、文章の構成に必要な考えが広がるように工夫しています。
- ・**間接指導の充実**を図るために、4年生では前時に4～6段落の構成を学習したことを踏まえて、1～3段落は間接指導で、7・8段落は直接指導で考える活動を位置付けています。



協力校（事例順）

二戸市立御返地小学校（会場提供）
岩手大学教育学部附属小学校（授業提供）
雫石町立橋場小学校（授業提供）
葛巻町立小屋瀬小学校（実践資料提供）

作成協力（事例順）

県北教育事務所（二戸市）指導主事 三浦 英浩
盛岡教育事務所（雫石町）指導主事 西村 蘭子
盛岡教育事務所（滝沢市）指導主事 渡邊 康二
盛岡教育事務所（葛巻町）主任指導主事 西舘 修治

参考文献

平成26年度版 複式学級の特質を生かした 学習指導のすすめ方ガイド
（岩手県立総合教育センター）平成27年2月

http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/siryou/h26/h26_1405_2.pdf

葛巻町授業力向上プランの挑戦 葛巻型小規模・複式指導リーフレット
～ 教科書を開いて考えさせる授業【算数・数学科】～
（葛巻町教育センター）平成27年3月

<http://www.town.kuzumaki.iwate.jp/images/library/File/shigoto/kyouiku/gakkou-kyouiku/h27-fukusikisidou-leaflet.pdf>

南北600kmの教育～へき地・複式教育の手引き～
（鹿児島県教育委員会）平成26年3月

<https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/hekichi/tebiki/nanboku.html>

これだけは知っておきたい へき地教育ハンドブック
（全国へき地教育研究連盟）平成7年8月

小学校複式学級指導資料 算数編（文部省）平成7年10月



岩手県教育委員会事務局学校教育室

<http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/shouchuu/003306.html>